

季楽里龍神

〒645-0525 和歌山県田辺市龍神村龍神189
☎0739-79-0331
営業時間
レストラン：11:30~13:30(L.O)
※冬季期間中13:00(L.O)
日帰り入浴：11:00~15:00(受付)
売店：7:30~21:00
定休日なし(メンテナンス等による臨時休館あり)



高野龍神スカイライン
世界遺産「高野山」から
龍神温泉を結ぶ42.7kmの
山岳ハイウェイ。
原生林をぬけて走る標榜は
龍のうねりを想像させる。
四季折々の美しい風景を
ドライブしながら楽しめる。
※冬季通行規制あり

季楽里龍神

大自然に佇む伝統と由緒ある秘境の名湯



ホームページはこちら!



平成16年4月に開設した季楽里龍神。以前は龍神山荘というログコテージやテニスコートがある施設でした。“四季折々の季節を楽しめる里”ということから一般公募で名前が付けられ、その名のとおり春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色を楽しむことができ、夜空いっぱい広がる満点の星空観賞も。龍神材でできた館内は明るく清潔感があり木の温もりを感じられ、開業から20年近く経った今でも”木の良い香りがする”と話される方もいるそう。客室は57室あり、和室・洋室どちらも大自然の眺望を楽しんでいただけます。中にはペット(小型犬)と泊まる事ができるお部屋や、温泉浴室が付いたバリアフリーの特別室も用意されています。本館よりも

少しリーズナブルな別館・東館もあるため、釣りや湯治、学校の合宿などで長期滞在されるお客さんも多いんだそうですよ。



龍神温泉の大浴場

温泉の名前の由来は、弘法大師が八大龍王の長である「難陀龍王」の夢のお告げにより開湯され、龍神温泉と名付けたとされています。龍神温泉は鳥根県の湯の川温泉、群馬県の川中温泉とともに日本三美人の湯と称されており、“化粧いらぬ美人の湯”といわれています。泉質はナトリウム炭酸水素塩泉で、つるつるでしっとりとした柔らかいお肌に。また、冷え性や肩こり神経痛などにも効果があるとされています。広々と開放感のある大浴場はゆっくり過ごすことができるので、体の芯までぽかぽかに。



紀州スギでできた木工家具『G.WORKS』のベンチは肌触りが良く、座り心地抜群。

ロビー併設の『Café sankirai(サンキライ)』でひとやすみ♪
コーヒー、ソフトクリーム、アルコールなどが揃っています。待ち合わせや入浴後の休憩などにいかが?



内湯 男女ともにサウナ完備

宿泊時のお食事はバイキング形式となっており、地元で獲れた食材にこだわった地域色豊かな料理をいただくことができます。美しい水や豊かな自然が育んだ山の幸をふんだんに使っているからこそ新鮮で色鮮やか、種類も豊富で優しい味付けなのでいくらかでも食べることができちゃいます。揚げ物や甘味も充実しているので、全世代のお客様に満足していただける内容となっています。



バイキングは日帰りでも利用可能! ※要予約

山の幸御膳
地元の山菜や川魚などを使った季節ごとの旬の幸が味わえる自慢の一品。熊野牛の陶板焼き(右写真)と日帰り入浴がセットになったプランも。休日の贅沢なランチタイムを過ごしてみたい。
※要予約(冬季期間中は週末と祝日のみ営業)



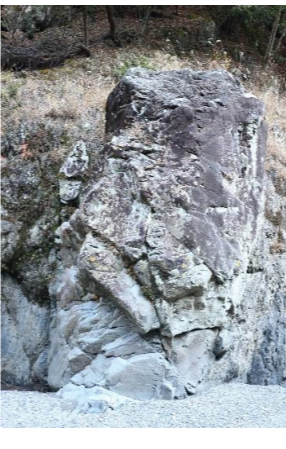
龍神村の産品をはじめ県内のお土産が勢ぞろい♡

売店には古くから龍神村の家庭で造られている味わい深い龍神味噌や、肉厚ジューシーな龍神生しいたげなどをはじめ、県内の酒類やお菓子なども揃っています。温泉を使用した入浴剤や石鹸なども販売しているので、ご自宅でも龍神温泉のつるつるしっとりとしたお肌になることができますよ。気分をリフレッシュしたい、日々の喧騒に少し疲れてしまった方、どんな方でも、少し足を延ばし、龍神村の恵みを使った美味しいお料理を味わい、良質な温泉で体の芯から疲れを癒す自分へのご褒美旅に出かけてみるのはいかがでしょうか?

スタッフの皆さんから一言
ご宿泊はもちろんのこと、日帰り入浴やお食事だけのご利用も可能です。お一人様も大歓迎! 各種プラン/料金や空き状況など、お気軽にお問い合わせください。みなさまのご来館をお待ちしております!
Instagramも日々更新しています。お得な情報など発信していきますので、フォローお願いします♪



今回のマニアスポットは龍神村の「天狗」の名が付く木や場所の一つ、甲斐ノ川方面ほう(くり)地区に伝わる「天狗岩」のお話です。
この天狗岩は方栗橋から約1.5km進むとある高さ3m程のヤツカン滝右手の北又谷の上流にある岩山を指し、江戸時代末期まで「こら」一帯はモミヤツガ等の針葉樹とナラやクヌギ等の落葉樹に覆われ、日光が地面に届かず苔むした堆積土が広がった原生林だったそうです。
当時岩山の近くには他の樹木と比べても抜きん出たツガの大木がそびえ立っており、この大木を「山太郎」と呼んでいました。山太郎は苔に覆われた直径2m以上ある巨幹から水平に楕円形の枝を伸ばし青いじゅうたんを敷き詰めた様子から、天狗の座として尊称されていました。
そんな中、ある材木商がこの谷の伐採にとりかかりました。しかし、どの木も目通り直径1mは超える大木ばかり。これらを伐採するのは木こりの中でもかなりの腕前と経験が必要でした。そこで龍神村上福井地区の木こり達の親方であった進之助がこの仕事を請け負いました。進之助は人並み以上の腕力と大食漢で有名だったそうです。
伐採が進み、かねてより地域の木こりたちは「この木は天狗様の宿の木いやさか伐らん様にしてはよ」と買主へ交渉してしまいがたが、進之助が伐倒役を引き受け、ついにその日がやってきました。彼は祭壇を作り山神へ祈りを捧げた後、約1mの大鋸で伐り始め、午後3時頃におおよそ半分ほど鋸が入ったその時、山全体が異様なうねりを上げ、天狗風(旋風)が巻き起こり、山太郎は根元から大きく裂け地響きを上げながら谷底に倒れました。
木こり達は進之助がいた方へ駆け付けましたがなぜか彼の姿は無く、大声で呼んでも返答がありません。ただ進之助が片時も離さなかったキセル差したばこ入れが倒した山太郎の枝にかかっていたそう。以降行方不明となった進之助の捜索が徹底的に行われましたが見つからず、彼が天狗にさらわれたものとしてたいそう人々に恐れられました。
約1か月後、谷底に倒れた山太郎の幹に腰をかけた怪しげな白髪瘦身の老人が見つかりました。見つけた木こりは仲間を呼び恐る恐る老人を見るとそれが進之助と分かり、急ぎ自宅へ送り届けましたが3日目には彼は息を引き取りました。まるで神隠しにでもあった進之助はこの1か月余りどこを遊んでいたのか、なぜ白髪になってしまったのかは不明のままとして伝わっており、その後岩山は畏敬の念を込めて天狗岩と呼ばれるようになったそうです。
残念ながら現在は岩山の天狗岩までは一般車両はアクセスすることができませんが、先に述べた天狗岩とは別に、同地区の河川に昔々からこの地域で「てんぐいわ」と呼ばれている天狗の顔に似た巨岩があり、子供たちの川遊びやウナギ捕りの好スポットだったそう。川へ突き出したこの岩は「てんぐいさん」の敬称で今も地域に親しまれています。
天狗の言い伝えや名称が複数残るこの地区は、もしかしたら遠い昔、本当に天狗の住処だったのかもしれない。



引用：龍神村誌 下巻

甲斐ノ川の天狗岩
龍神まにあスポット!